

少女3年生以下 **おめでとう！！**
ニーニャス大会都大会出場
第18回東京ニーニャス大会
東京都Eブロック予選(3年生以下少女)

○予選リーグ戦1日目<9/13 緑が丘小>
南八王子 対 なかの 1-0 (前半0-0)
得点者 片寄優さん

初戦は病欠を除き、7名で参加しました。井上さんは少年Cクラスからの助っ人です。みんな良くボールに行き、圧倒的に攻め、ほとんど相手側で試合をする展開で、キーパーの矢久保圭さんは1度もボールに触れることがありませんでした。圧倒的に攻めているながら、どうしてもダンゴの中に入れて行き、前に前にけるだけでゴール前でもダンゴになり、なかなか得点できず、片寄優さんの1点でどうにか勝てました。

09・9・26 (土)
南NEWS NO25

南八王子 対 鶴牧 1-0 (前半1-0)
得点者 井上さん

この試合も前の試合と同じで、圧倒的に相手側で試合をする展開で、キーパー(矢久保圭さん)が1度もボールに触れることがありませんでしたが、前半は井上さんの1点だけで相変わらずダンゴで前に蹴るだけでした。片寄優さんもドリブル突破しますが、ドリブルが長すぎたり、ゴールを外すばかりで、なかなか得点があげられませんでした。

○予選リーグ2日目<9/19 宝野公園>
南八王子 対 南大沢B 0-1 (前半0-0)

この試合は負けはしましたが、大変良い試合ができたと思います。この試合から3年生の豊川静さんがキーパーとして入り、全体としてバランスの良いチームとなりました。

試合内容では、左右からドリブルで上がる、また左右にパスを回す相手をことごとく事前につぶし、互角以上の試合をして、シュート本数ではむしろこちらの方が多いぐらいでした。しかし後半に相手がドリブルで抜けたところをクリヤーしましたが、相手のコーナーキックになり、そのコーナーキックをゴール前でごちゃごちゃしたところでゴールを許し負けてしまいました。負けはしましたが、負けたという気がしない良い試合だったと思いました。

南八王子 対 樺 7-0 (前半4-0)
得点者 片寄優さん(5)、小沢さん、辻内麻さん

この試合は相手のプレーシャーも少なく、なんと7点取りましたが、まだまだダンゴの中に持って行き前に進めなかったり、ドリブルが長すぎたりの試合で、もっと得点の取れる試合でした。

以上が予選リーグの結果で、2位となり決勝トーナメントに進みました。
○決勝トーナメント<9/21 相原スポーツ広場>

1回戦:南八王子 対 南大沢Y 2-0 (前半1-0)
得点者 片寄優さん(2)

1年生の新入部員の佐藤さんを含めて、初めて10名全員が揃っての試合でしたが、これも攻めに攻めていましたが、決定打が無く片寄優さんの2点で終わってしまいました。

準決勝:南八王子 対 トヨニ 0-0 (PK3-2)

この試合に勝てば中央大会出場が決まると、みんな気合が入りました。試合開始

後しばらくの間、相手の大きなエースは会場への到着が遅れて出場せずチャンスの時間がありましたが、得点をあげることができませんでした。途中から相手のエースが登場してしましますが、井上さんが相手をしっかりと抑えて仕事をさせず、互角以上の試合ができました。しかし結果は0-0でPK戦へ突入します。PK戦のキーパーは片寄優さんがやってくれましたが、2人目を足で止めてくれました。南八は片寄優さん、小沢さん、井上さんの3人がしっかりと決め、3-2で勝って、中央大会出場を獲得しました！

決勝:南八王子 対 南大沢B 0-0 (PK5-6)

準決勝は『絶対に負けられない試合』でもありましたので、一進一退の手に汗握る展開の中で、残念ながら1年生に出場の機会を与えられませんでした。そこでこの決勝戦は勝っても負けても、全員出すと決めて試合に臨みました。結果、その1年生の全員が相手にガンガン行き素晴らしい試合をしました。この大会で初めてキーパーを務めた豊川静さんもゴールを必死に守り、全員良い試合をしましたが、結果は0-0の引き分けでこれもPK戦になりました。これもキーパーは片寄優さんが務め、6人で10回まで蹴るという緊迫したPK戦になりましたが、結果最後に入れられ、5-6で負けて準優勝でした。

今大会、全員、私が期待していた以上の働きをして、良い試合をして、良い結果になったと思います。ただ、どうしても前に前にと一直線で、足技があんまり使えていないので、もっと足技が使えるともっと良いチームになると思います。中央大会もガンバろう！
b y 高見沢コーチ

困った子は困っている子、困り感に共感を

矢上が担任をしていた時の話です。4月、ある学年を受け持った時、その前の2年間を担任していた先生から「矢上さん、大当たりね！A君親子はとっても大変よ！」と言われました。だいぶ苦労したようでした。A君は担任を悩ました困った子なのでした。しかも保護者も、ということでした。

確かに、クラスでルールを守らず、勝手なことはやるは、暴力をふるうはという面はありました。低学力でもありました。

しかし、運動神経抜群で体育や外遊びの時はリーダーでした。その良さを認め、担任もできるだけ休み時間や放課後も共に遊びを楽しみ、リーダーとしての力量を評価していったのです。算数の時間は100マス計算に毎時間全員で取り組み、A君もタイムをどんどん縮め、100点を取るようになってきました。

クラスの全員が発言した時、100マス計算で全員が合格した時、目標時間以内にできた時、漢字テストで全員が80点以上を取った時等クラスの宝物にして、100個たまった時には、お祝い2時間使ってレクレーションをしました。そのような中でA君も授業中の発言を増やし、クラスの決まりを守り、みんなで協力することのよさ、自分を育て、育ちあうことのよさに気づいていったのです。叱られた時に、どうして叱られるの、またやっちゃった、叱られちゃったという困った顔をしていましたが、そういう顔をすることも減っていきました。

『どの子も』という学級通信を出し、「どの子も楽しくわかる授業を創りたい、どの子も楽しいと思える学級を創りたい」との願いを基に、日々、遊びを取り入れ、よくわかる楽しい授業創り、クラス創りの実践をめざしている時のことでした。

「困った子」と言われる子は「どうしていつもこうなっちゃうの」と困り感を持っています。その困り感に共感し、よい面を認め励まし伸ばすことで自信を持たせ、自尊・他尊の感情を育むことができます。友だちのために役立っているという有る感、居場所があるという安心感が悪性の攻撃性を徐々になくさせていくのです。

いじめは絶対に許されない行為です。時に断固たる指導、適切な指導は必要です。しかし、「あの子が、あの親が」というきめつけ、排除や懲戒をでは逆効果なのです。穴の中のザリガニです。棒でつつけばつつくほど奥に入ってしまうのです。

その年の私の誕生日にA君は親子で大きなケーキを作ってくれました。

